

水平避難と垂直避難はどちらが有効?

一般的には避難所や避難場所に逃げる事(水平避難)がイメージされますが、その時の状況によりその場にとどまる方が安全な場合もあります。

今いる場所を確認

- ・ 高く安全な建物にいる場合はそのまま留まったり、より高い階へ垂直避難することが有効です。
- ・ 低い土地や地下空間などにいる場合は浸水が始まる前に速やかにその場所を離れる水平避難が有効です。

雨の降り方を確認

- ・ 局所的で短時間の集中豪雨の場合、短時間で被害が発生しますが、水が引くのも短時間の場合が多いため、その場に留まったり、垂直避難することが有効な場合が多いです。

浸水状況を確認

- ・ 既に浸水が始まっている場合には外に出ることで身の危険が高まることもあり、垂直避難が有効な場合が多いです。しかし、状況により水平避難が必要なときは足元に注意して避難しましょう。浸水深が20cm以上では車の移動は困難になるため、車での避難はやめましょう。

時間帯を確認

- ・ 夜間の避難では足元が確認できないなど、危険性が高まるため垂直避難することが有効な場合が多いです。

上記の内容を総合的に判断して、その場にあった避難方法をとってください。
また、大雨や台風時は河川水位が上昇し洪水が発生する危険性が高まりますので、「洪水ハザードマップ」により避難所等や避難方法を確認して下さい。

道路が浸水している場合の危険箇所



坂道では、水深が浅くても、水の流れが速くなるので危険です。



側溝などは、見えにくいので、落ちて流される危険があります。

8.避難の際の注意事項を確認しましょう

避難場所までの経路に危険箇所がないか、日頃から確認しておきましょう。

1 天候や災害状況、避難等の情報に注意し、浸水が起きる可能性がある場合には、十分な警戒をしましょう。



6 歩きやすい服装で、二人以上で避難しましょう。



2 なるべく新しい情報を入手するように努めましょう。



7 浸水箇所での避難は、側溝やマンホールに注意しましょう。



3 避難する前に電気、ガス、火種を消しましょう。



8 お年寄りや障害のある方などの避難の手助けをしましょう。



4 非常持出品は最小限にしましょう。



9 車での避難はひかえましょう。



5 はきやすくぬげにくい運動靴などはきましょう。長靴は水がはいと歩きにくくなります。



10 もしも逃げ遅れたときは、近所の丈夫な建物の上の階に一時的に避難しましょう。

